

わたなべ英治県政だより

討議資料

発行：渡部英治政務調査オフィス

〈第12号〉

2017年5月

「元気の出る大曲仙北・秋田」の実現へ！

皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、皆様のおかげにより再度県政の場へ送っていただいてから早いもので2年が経過しましたが、この度の2月議会において、会派“みらい”の代表として人口減少対策や農業政策などについて質問を行いました。

今後も、地元の皆様の声を県政に反映することを何よりも大切に、県政課題に果敢にチャレンジしてまいります。

そして、「元気の出る大曲仙北・秋田」の実現をめざし、全力で頑張る所存であります。皆様には引き続き、ご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願いいたします。



平成29年2月議会 代表質問

秋田県議会
会派みらい代表

渡部英治

～佐竹知事と老松新市長を迎えて～

わたなべ英治県政報告会 交流会の開催



とき ■平成29年5月21日(日)午後3時

ところ ■フォーシーズン (大仙市佐野町2-4)

テーマ ■「県政課題について」

1. 人口減少対策について

—佐竹県政2期8年の人口減少対策について—

渡部



佐竹知事の2期8年間の人口減少対策は、子育て支援や結婚支援、若者の県外流出防止など様々な分野で取り組んできたが、今のところ目立った効果は見られず、むしろ人口減は加速している。例えば、出生数は2009年の7,044人から2015年には、5,988人に減っており、1期目に出生数を8千人とする目標に達していない。また、社会減も年4千人台と増加傾向にあり、今こそ社会減の防止策が急務である。

キーワードは雇用。若者の定着と女性の活躍できる環境づくりのため、魅力ある働く場の確保が必須。そのためには思い切った対策が必要であり、「あきた未来総合戦略」の推進に真正面から取り組んでいかなくてはなりません。

知事が本年4月より新たに設置する人口減少対策の専門部については、しっかりとしたビジョンと数値目標を示した上で、県民総意での効果的な事業の推進を図らなければなりません。知事の所見を伺います。

知事



私は知事就任以来、本県が持続的に発展していくためには、将来において一定規模の人口を維持することが重要であるとの認識のもと、人口減少対策を重点課題として、自然減と社会減の抑制に取り組んできました。具体的には、ふるさと秋田元気創造プランや、「あきた未来総合戦略」に基づき、雇用を生み出す成長産業の育成や大規模な複合型農業の生産拠点づくり、Aターン就職の推進や「ドチャベン事業」等の移住・定住対策を推進してきました。

また、あきた結婚支援センターによる男女のマッチングをはじめ、全国トップレベルの保育料・医療費助成の拡充や多子世帯向けの奨学金貸与枠の新設など、人口減の抑制を図るための攻めの取組みを展開してきました。

しかしながら、少子化に歯止めをかけることや、女性・若者にとって真に魅力のある就業の場づくり

平成29年第1回定例会2月議会 代表質問項目

- ◎ 知事の三選出馬と将来ビジョンについて
- ◎ 人口減少対策について
- ◎ 農学部の誘致について
- ◎ 農業政策について
- ◎ 県・市連携文化施設について
- ◎ インバウンド誘客対策について

- 1 新部の設置について
- 2 農学部の誘致について
- 3 佐竹県政二期八年の人口減少対策について
- 1 TPPからのアメリカ離脱について
- 2 減反見直しを見据えた戦略について
- 3 女性農業者の起業の促進について
- 1 事業の進め方について
- 2 敷地の一体的利用について
- 3 一方通行の解除について
- 1 国際花火シンポジウムと花火産業構想について
- (2) 国際花火シンポジウムの意義について
- (3) 花火産業構想について
- 2 大曲工業高校への花火学科の創設について
- 3 秋田犬の活用について

などは道半ばであります。

今後とも、なお一層、高卒者やAターン就職者などの県内企業への就業促進に取り組むほか、若い女性の県内定着に向けて、ICTやデザインなどに魅力ある就業の場の創出、ICT化が進む製造業など幅広い業種への就業促進を図るとともに、「日本一の子育て環境づくり」の推進など、人口減少対策を県政の最重要課題として、全力で取り組んでいきます。

—農学部の誘致について—



以前から提唱している本県への農学部の誘致について、改めて提案します。

人口減少の大きな要因となっているのが、「止まらぬ東京一極集中」であります。地方からの人口流出が止まらず、地方創生を目指した企業の本社や省庁の移転も進んでいません。

そんな中、政府は東京一極集中の一因とされる東京都内の大学集中の是正策を操るため、有識者会議を開きました。

若者の地方への定着に向け、地方での大学振興や若者向け雇用機会の創出、都内での大学・学部の新増設抑制や地方移転について話し合い、5月中旬頃に中間報告書をまとめるとのことです。

これこそ、農学部誘致への絶好のチャンスではないでしょうか。県内出身者の東京農大卒業生は約1,200名と多く、JA職員をはじめ、酒造会社など多種多様な分野で活躍しています。

また、仙北地域には国の農業研究機関や県の畜産試験場などがあり、農学部誘致の受け皿として好条件にあると思います。

せっかく、新たな部を設置するわけですから、ぜひ実現に向けた積極的な取組みと知事のトップセールも必要と考えますが、知事の所見を伺います。



地方における人口減の大きな要因として、大学等への進学時における若者の流出が挙げられており、全国知事会でも私が委員長を務める文教環境委員会での議論を基して、地方への大



■「大曲花火米」研究会の皆さんと農業問題を語る

学移転の促進等による、若者の東京一極集中の是正を国に提言しています。

大学は、若者人口の維持・増加に加え、地域の活性化や課題解決に向けて重要な役割を担っており、地方では今後、益々その存在意義が高まっていくと認識しています。

いずれにしても、一挙に学部全体を誘致することは困難であることから、まずは、今年度からスタートしたユニット研究室を核とした産業活性化推進事業により、大学研究室の一部をランチとして県内に誘致する取組みを積極的に進めていきます。

2. 減反見直しを見据えた戦略について



県産米の新たな生産販売戦略を検討する会議が1月30日に開催され、大手コメ卸や飲食チェーン農業団体、生産者代表者のメンバーにより開催されました。会議では、実際の市場ニーズから県産米の需要量を的確に把握する重要性を指摘する声が続いだとのことです。

課題として挙げられた外食・中食などの業務用ニーズへの対応と需要把握による生産の目安の設定、さらには、販路拡大と農業経営の安定について、県の方針と具体策について知事の所見を伺います。



先般開催した、米戦略の検討会議において、全国的に業務用が不足する中で、とりわけ食味が良く値頃感のある「あきたこまち」の需要が堅調で、供給量を増して欲しいとの意見があった。

また、最近、実需者による産地困り込みの動きが加速しており、JAや農業法人等が実需者との結びつきを強めることが出来るよう、販路拡大に向けた主体的な取組み支援をしていく。

さらに、将来の秋田米のプライスリーダーとなる新品種の開発などを通じ、米産県として、確固たる需要の確保に努め、基幹作物である米の安定生産を図り、農家の経営安定に繋げていきたい。

渡部英治の県議会レポート

～代表質問より～
(29年2月議会)

『2月議会代表質問』より新聞記事等について紹介します。////



渡部 英治氏
(みらい・大仙市仙北郡)
◆海外からの誘客促進のため秋田犬を活用すべきだ。秋田空港の愛称を「秋田犬空港」としてはどうか。

秋田犬で誘客促進を

知事 愛称で誘客効果が期待できるが、8のつく日に秋田犬が利用者を迎えている大館能代空港との調整を行うほか、県民の合意形成も必要だ。本県は秋田犬をキーワードとして国内外に売り出すこととしており、愛称については関連団体などの意見を聞きながら研究したい。

※平成29年2月14日／秋田魁新報記事より

知事 公約は議会の議論を踏まえて作り、3月上旬までに示したい。若者の県外流出を食い止めるには、魅力ある雇用と子育て環境を整えることが重要。産業振興や観光誘客、結婚支援、健康づくりなどを盛り込む。

●人口減少対策について

○：「インパクトに欠ける」。13日の県議会代表質問で渡部英治氏(みらい)が、人口減少対策を強化するため県が4月に新設する組織「あきた未来創造部」の仮称を批判した。

県議会記者席

何をする部か分かりにくいと指摘、「ずばり『人口減少対策部』といった誰にとっても分かりやすい名称にすべきだ」と迫った。
佐竹敬久知事は「誰もが活躍して

「未来創造」何する部？

もらえる社会づくりを進めることで秋田の未来を創造する、という思いを込めた。県民へのメッセージでもある」と説明した。
質問後、渡部氏は「分かりにくい名称には、成果を上げたかどうかが県民からの監視をはぐらかす狙いがあるのではと疑ってしまう。県民と危機感を共有できる直接的な名称が望ましい」と納得がいかない様子。知事の答弁内容もインパクトを欠いていたようだ。
(石塚健悟)



「渡部英治県議」2月定例県議会代表質問 傍聴記念 (2017.2.13)

「わたなべ英治」ホームページ開設中！



わたなべ英治 を 検索 クリック。

「活動報告」「プロフィール」などを掲載しております。



「わたなべ英治後援会」事務所のお知らせ

住所：大仙市大曲上栄町11-9
(仙北地域振興局の西門向かい)

電話：0187-66-1700
FAX：0187-73-5625

